



新潟県埋蔵文化財センター・史跡古津八幡山弥生の丘展示館  
令和3年度企画展「倭国大乱から律令国家成立までの越後平野」  
講演会 令和3年10月17日

古津八幡山遺跡（新潟市）

# 東海からみた邪馬台国時代の新潟 ～登呂の洪水以後の東日本～



静岡大学人文社会科学部  
篠原 和大

登呂遺跡（静岡市）

## プロローグ

君は太平洋を見たか  
僕は日本海を見たい  
(中部横断道のキャッチフレーズ)



新潟 ●古津八幡山遺跡

信濃川

国府岡遺跡

静尾山古墳

登呂遺跡 ●静岡

富士川

2

## 今日の話の内容

- 邪馬台国時代の新潟と東海（静岡）
    - 弥生時代後期から古墳時代初頭（1世紀から3世紀）の邪馬台国の時代  
新潟と東海（静岡）で何が起こっていたのか。
  - 邪馬台国時代の東海～静岡を中心に～
    - 静岡とその周辺の邪馬台国時代の遺跡の動向をたどり、その特徴をつかむ。
      - 登呂遺跡の盛衰と後期中頃の洪水
      - 愛鷹山の高位置集落
      - 菊川式土器の関東地方への移動と環濠集落
      - 高尾山古墳の出現と北陸北東部系土器
  - 東海からみた邪馬台国時代の新潟
    - 新潟と東海の邪馬台国時代の同じころ、環濠集落と異系統土器の共存、高位置集落、古墳時代初頭の広域移動など同時期に類似、関係するような動きが認められる。
      - 高地性・環濠集落—倭国乱の頃
      - 新潟から来た人々
- まとめ

3

## 1. 邪馬台国時代の新潟と東海（静岡）

| 時期区分     |          | 近畿                    | 北陸               | 新潟                      | 駿河湾    | 静岡            | 愛知                 |                   |
|----------|----------|-----------------------|------------------|-------------------------|--------|---------------|--------------------|-------------------|
| 弥生時代     | 中期       |                       |                  |                         |        | 有東            | 高蔵<br>八王子<br>古宮    |                   |
|          | 前半       | V                     | 猫橋               | 八幡山遺跡<br>裏山遺跡           | 登呂遺跡   | 登呂            | 雌鹿塚<br>(前)         |                   |
|          |          |                       |                  |                         |        |               |                    | 菊川式・山中<br>式の移動(1) |
|          | 後期       | 法仏                    | 東北系・北陸北<br>東部系土器 | 斐太遺跡                    | 登呂の洪水  | 菊川式の移動<br>(2) |                    | 山中                |
| 後半       | 邪馬台国時代   | (高地性・環濠集落)<br>邪馬台国の時代 |                  | 足高・尾上遺<br>跡群<br>(高位置集落) | 飯田     | 雌鹿塚<br>(後)    | 廻間 I               |                   |
| 終末<br>早期 | 終末<br>早期 | 庄内                    | 白江               | 他地域土器の流入<br>東北系土器激減     | 汐入居館   | 高尾山古墳         | (汐入) 大廊 I<br>大廊 II | 廻間 II             |
| 古墳時代     | 前期       |                       | 古府<br>クルビ        |                         | 神明山1号墳 |               |                    | 廻間 III            |
|          | 後半       |                       | 布留               |                         |        | (小黒) 大廊 III   |                    |                   |
|          | 中期       |                       |                  | 古津八幡山古墳                 |        |               |                    |                   |

◎新潟で古津八幡山遺跡などの邪馬台国時代の緊張関係を示す高地性・環濠集落が営まれているころ、列島太平洋岸の東海ではどのような状況があったのか。大規模な水田を営んだ登呂遺跡が洪水による終焉を迎え高位置への集落の移動や遠隔地へ環濠集落を形成した移動が行われるなどやはり激動の様相が認められる。

4



北陸北東部系  
東北系  
信濃系

■ 高地性環濠集落 (I A)  
□ 孤立丘陵上の環濠集落 (I B)  
△ 低地の環濠集落 (I C)  
● 高地性非環濠集落 (I)



山元遺跡  
石巻八幡山遺跡  
経塚山遺跡  
横山遺跡  
前原遺跡  
斐太遺跡  
西谷遺跡  
折敷平野  
信濃川沿岸





### 倭国大乱の頃の新潟

古津八幡山遺跡、裏山遺跡、斐太遺跡などの高地性の環濠集落が形成されるようになる（緊張状態）。

北陸北東部系、東北系土器が共存し、折衷土器。

後期の終わりごろまでに環濠埋没

◇令和3年度秋季企画展「倭国大乱から律令国家成立までの越後平野」展示図録  
◇甘粕健編『越後裏山遺跡と倭国大乱』

5



(16) 新発田市野中土手付遺跡の土器 (第1会場)

(17) 長岡市横山遺跡の縄内系タキキ壺 (第1会場)

(18) 阿賀野市腰廻遺跡の北陸南西部系壺 (第1会場)

(19) 新発田市野中土手付遺跡の北陸南西部系裝飾器台 (第1会場)

(20) 新発田市野中土手付遺跡の小型器台 (脚部の三角形透孔は外来系) (第1会場)

(21) 阿賀野市腰廻遺跡の皮袋形土器 (外来系) (第1会場)

(22) 新潟市道正遺跡の皮袋形土器 (外来系) (第2会場)

(23) 阿賀野市腰廻遺跡の続縄文土器 (第1会場)

(24) 長岡市横山遺跡の東北系土器 (又は続縄文土器) (第1会場)

(25) 新潟市椛O遺跡の続縄文土器 (第2会場)

### 邪馬台国・卑弥呼の頃の新潟

北陸北東部系の土器が主体に。畿内・北陸南西部系土器が遠隔地から移入。列島的な遠隔地土器の広域移動の時代

6

◇令和3年度秋季企画展「倭国大乱から律令国家成立までの越後平野」展示図録

年輪の酸素同位体比の偏差  
年(西暦)

↑ 旱魃  
↓ 洪水

### 登呂の洪水はAD127年か!?

樹木年輪の酸素同位体比から推定される降水量の変動のデータから、中塚武氏は、紀元2世紀には数十年周期の気候変動が起きた時期であることを指摘し、「倭国大乱のような動乱を生じさせるもっとも危険な気候変動だったといえるかもしれない」とした(中塚2012など)。

その始まり頃のAD127年には極端に降水量が多かった年が推定され、赤塚次郎氏はこれを境に東海の地域社会は古墳時代へと舵を切り、廻間様式が誕生したとしている(赤塚次郎「環境変動と東海地域「狗奴国」の原像」『邪馬台国』洋泉社2015年)。

登呂遺跡の集落を埋没させた後期中頃の洪水もAD127年のことであった可能性が考えられる。

ただし、最近弥生時代のさらに長期的なデータが公開され、中期末頃からの湿潤化が目目される一方、土器編年との整合関係もやや異なった意見が出されている(樋上2020など)。

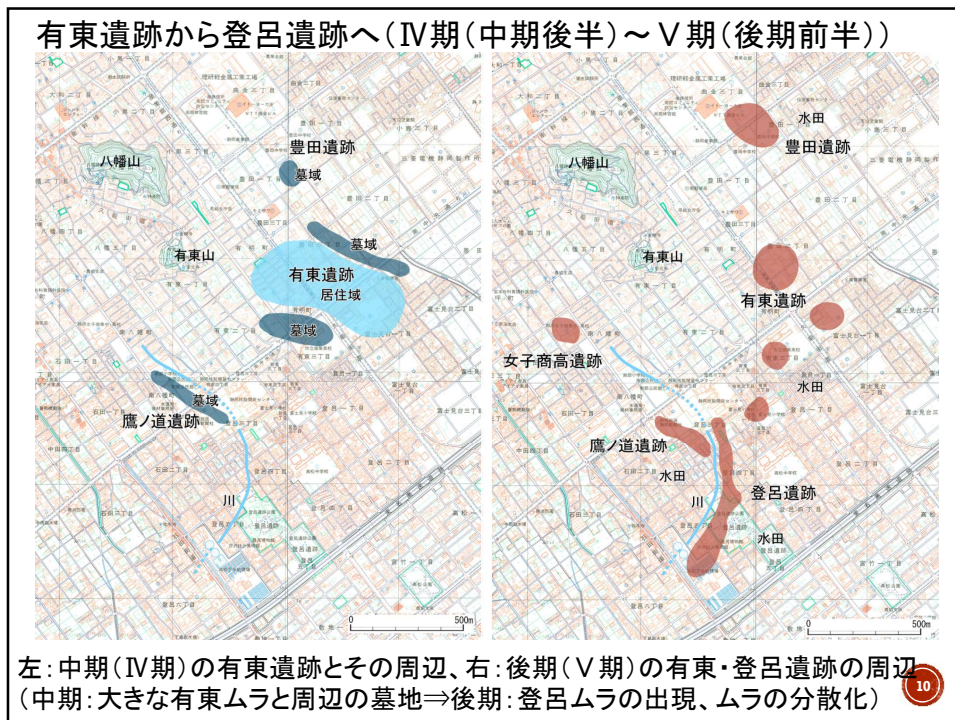
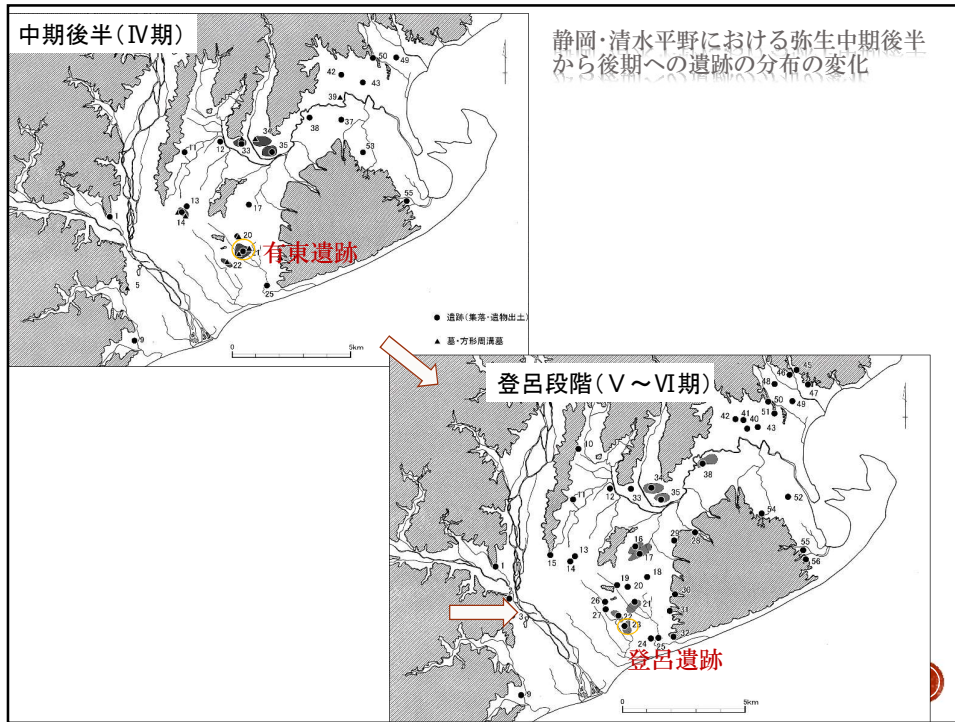
↑ 湿潤  
↓ 乾燥  
← 色青海  
→ 数十年周期の変動

年輪の値  
11年移動平均値

| 時代区分(伊勢湾) | 彌文晩期 / 弥生前期 | 弥生中期  |        |        | 弥生後期               | 弥生末～古墳早期          |
|-----------|-------------|-------|--------|--------|--------------------|-------------------|
| 土器編年(尾張)  | 馬見塚         | 遠賀川系  | 朝日     | 興田町(古) | 凹線紋1・2<br>高線(凹線紋3) | 八王子古宮・山中<br>廻間1～3 |
| 土器編年(畿内)  | 第I様式        | 第II様式 | 第III様式 | 第IV様式  | 第V様式               | 庄内式期              |

年輪酸素同位体比による気候変動パターンと尾張地域の土器編年  
(樋上昇「東海地方における弥生～古墳時代の遺跡変遷と気候変動」『気候変動から読みなおす日本史3』臨川書店2020年)





## 登呂村の成立と弥生後期（V期）の社会

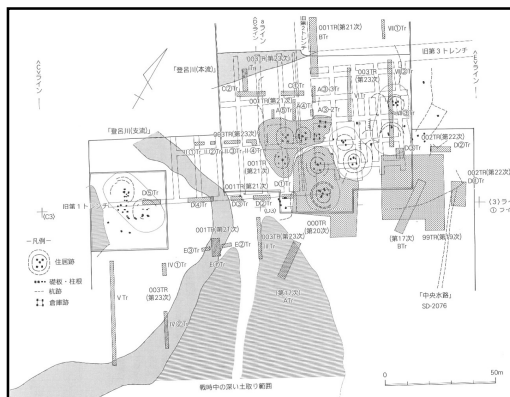
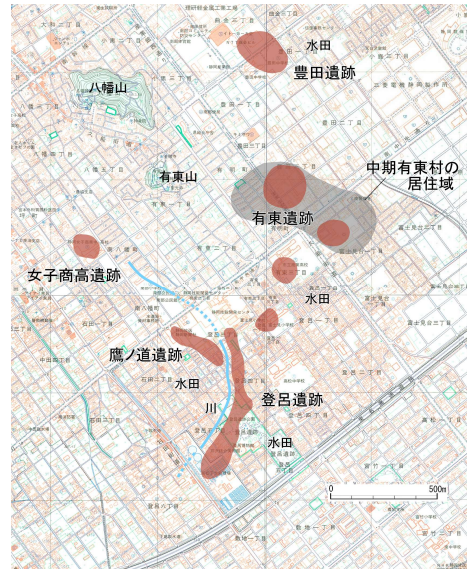
・登呂の村と水田が、弥生後期になって新たに形成された。対岸の鷹ノ道村にも微高地に集落が営まれ、西側に続く微傾斜地が水田に。

・有東遺跡では、中期の集落域だった部分の南側は、人為的に削平されて水田に変わり、居住域が狭くなる。

→有東から分かれて登呂や鷹ノ道が成立した。生産域(水田)は格段に広がった。



北（SBS展望レストラン）からみた登呂遺跡



### ◎登呂遺跡の評価の変化

・1947～1950 **昭和の発掘調査**

「弥生時代の洪水に埋もれたムラ」



・1998～2003 **平成の再発掘調査**

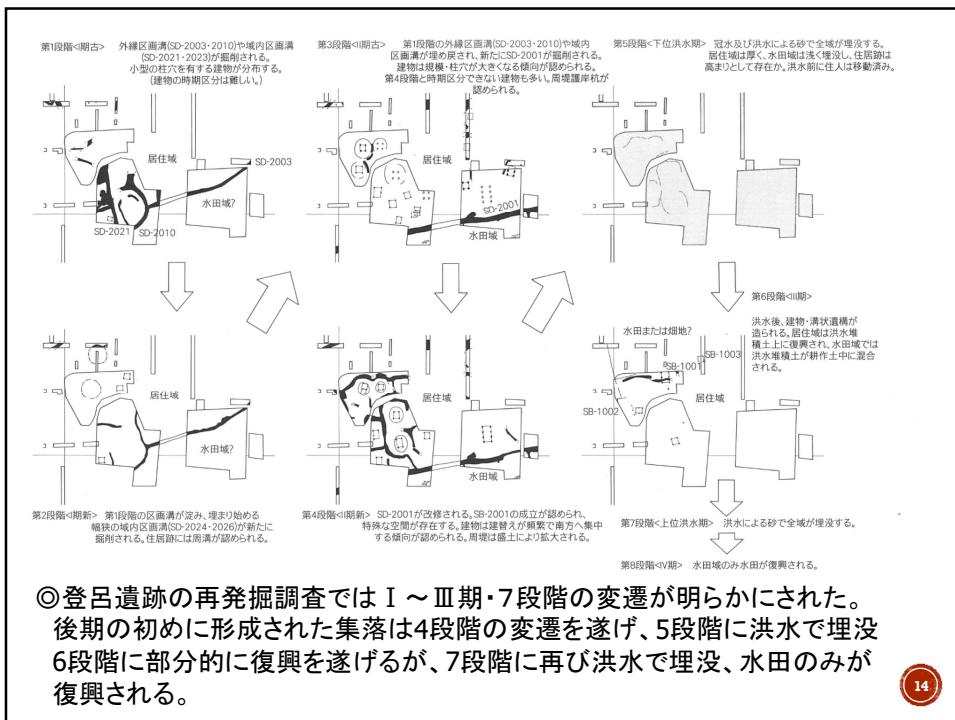
「弥生時代後期にはじまり、変遷を遂げたムラ。弥生後期中頃に洪水で埋没。一時復興を遂げ、水田は矢板で補強され使い続けられた。」





昭和の調査では、排水が不十分な中集落の最後の時期に近い様相が明らかにされた。平成の調査では遺構の層位的な関係と変遷が明らかになった。

13



◎登呂遺跡の再発掘調査ではⅠ～Ⅲ期・7段階の変遷が明らかにされた。後期の初めに形成された集落は4段階の変遷を遂げ、5段階に洪水で埋没6段階に部分的に復興を遂げるが、7段階に再び洪水で埋没、水田のみが復興される。

14

**登呂遺跡の形成と地域社会Ⅴ期)**

● 住居跡  
○ 住居跡 (廃棄後)  
■ 倉庫跡  
■ 祭殿跡  
— 溝状遺構  
- - 盛土畦畔  
... 小群群 (手組)

0 300m

谷地形 (小河川) 微帯池跡 微帯池  
SB-2021 SB-2019 <居住城>  
SB-2012 SB-2009 [3.50号住] 大型建物  
SB-2007 SB-2001  
SB-2015 SB-2008 <水田城>  
SD-2076 中安水路 25m  
SD-2001 小群群

復元された祭殿 (大型建物)

15

静岡市立登呂博物館『ようこそ登呂ムラへー登呂遺跡の生活復元図鑑』より





登呂遺跡の形成と地域社会（V期）

## 鉄の普及がもたらした変化

- ・大量の木製品・木器が出土
- ・木器加工用の磨製石斧はごくわずかしか出土しておらず、それを製作した痕跡もない
- ・木材の伐採や加工には、その加工痕跡からも鉄斧が使われるようになったのだと考えられる

⇒鉄器の普及

- ・磨製石斧を作り続ける作業（有東）から解放された。
- ・木の伐採加工や木器の製作の効率は飛躍的に向上。村の中で集約的作業は大幅に減り、労働力を開発や生産向けることが可能になった。

⇒有東の大きな村が解体縮小し、登呂のような広い水田を拓いた村が一気に作られた。

⇒鉄資源は静岡の立地や登呂式土器の系譜関係からも日本海側から中部高地を経てもたらされた可能性が高い



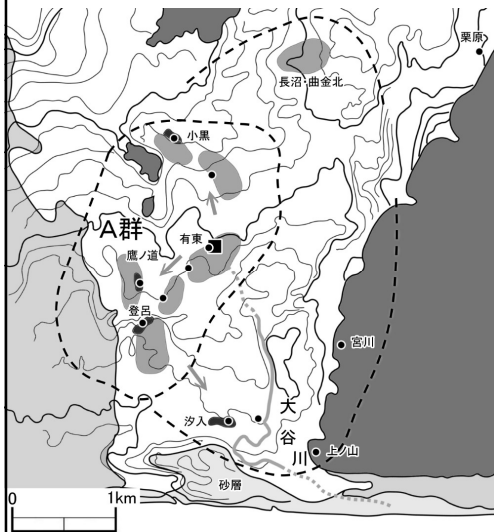
鉄器で加工された登呂の木製品



川合遺跡の鉄斧



登呂遺跡の形成と地域社会（V期）



登呂と静岡平野南部の  
農業共同体

登呂遺跡の祭殿を中心とした  
集団的な祭祀が復元できる。  
登呂に祭殿ができるのは、遺跡の  
変遷の後半段階。祭祀に集った人々  
はより広範囲の集団と推定できる。  
有東遺跡から分かれた集落集団の  
農業共同体有結合を推定。



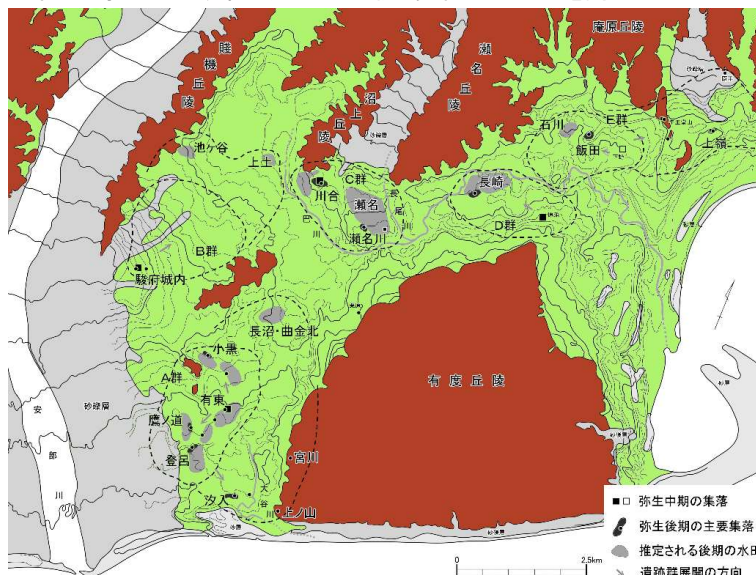
登呂の復元水田（現在）

静岡平野南部の弥生遺跡群の展開

◎登呂は後期中頃の洪水で埋没し、居住域は消滅する。すべての遺跡が低地から  
姿を消すわけではないが、代わるように有度山麓に宮川、上ノ山などの集落が現れる。

19

登呂の時代の地域社会—遺跡の移り変わりりと広がりを調べる



鉄器の普及、弥生後期にかけての環境の悪化が農耕への依存を強める方向  
に向かわせた？後期には 静岡平野の各地で広大な水田を切り開く動きが認  
められる。（篠原2008「静岡清水平野における弥生遺跡の分布と展開」『静岡県考古学研究』40を改変）

20